

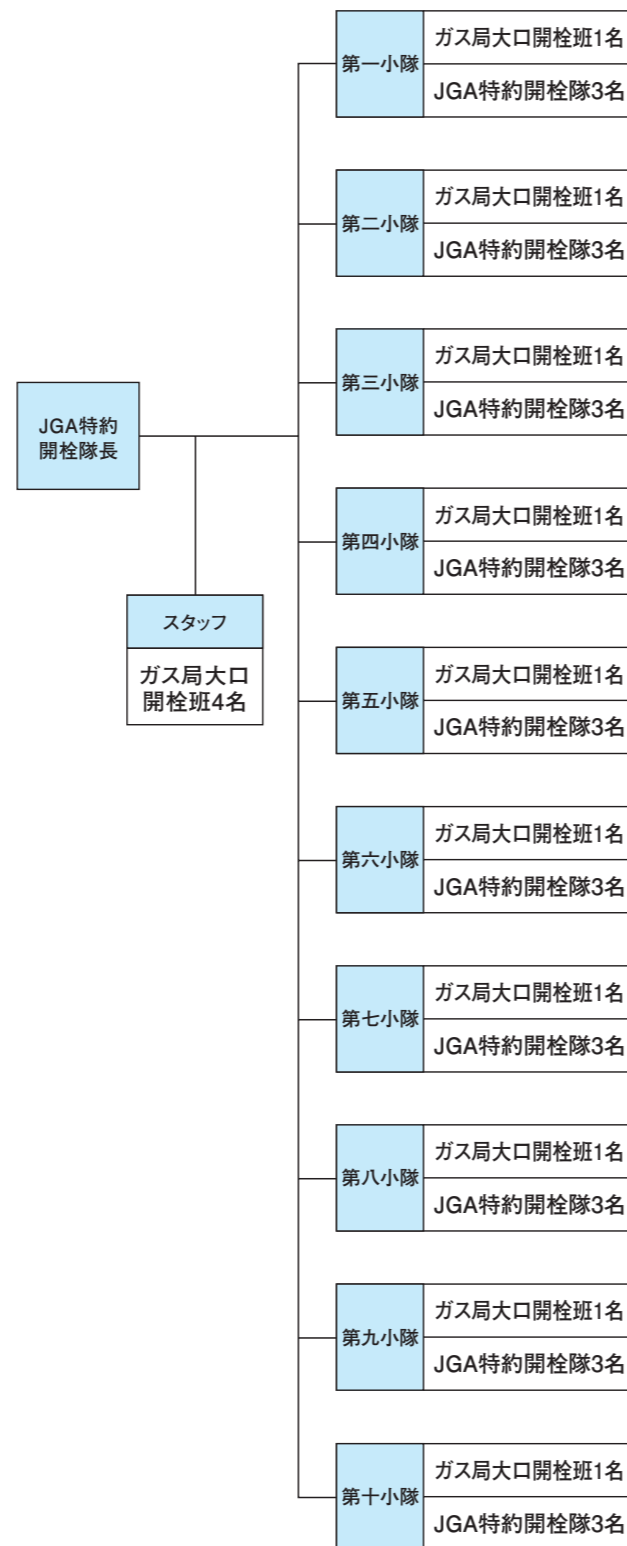
内管修繕B班

大口需要家の内管修繕、消費機器修繕、代替熱源確保および天然ガススタンドの保全・復旧を任務とした。対応対象はガス専焼需要家も含むため、初動は非常用発電設備への供給継続に尽力した。供給再開後は物件数約700件・メーター数約2,500件の開栓並びに内管修繕を担った。

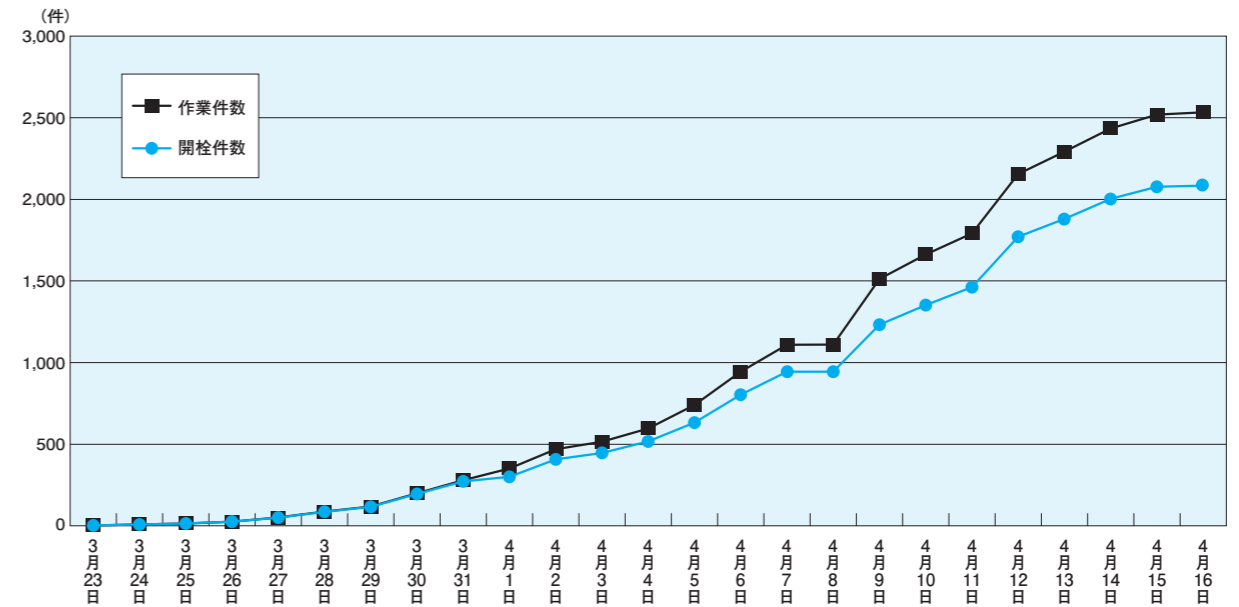
内管修繕B班が対応した大口需要家には、ガスコージェネレーションシステムで非常用発電を行うガス専焼需要家4件が含まれ、B班は地震発生直後から総力を挙げて発電設備運転状況の調査に当たった。当時、ホルダーおよびライン内のガスは、ガス専焼需要家の発電設備がフル稼動した場合の約6.5日分しかなかったが、連日巡回訪問を行い、可能な限り使用量を落としてもらうなどの対処を続けるとともに、他事業者よりLNGのローリー輸送の応援を得てガス送出を行うことにより、3月23日の供給再開までガス供給を継続することができた。その他の初動活動としては、天然ガススタンドへの対応およびPA13A 移動式ガス発生設備による供給の検討、中圧供給需要家等の閉栓作業を行った。また、パイプラインによる天然ガス受入決定を受け、GHP やボイラ等の特需機器メーカーとともに大口需要家設備の44.11MJ 対応状況の確認作業を行った。

3月23日の供給再開以降は、大口修繕班が泉・南営業所からの応援人員と共に内管修繕の初期対応を開始した。この作業は内管修繕A班内の鉄筋系班とも連携し、修繕規模が大きい物件は仙台ガス工事協同組合の工事人に引き継いで4月28日のB班解散まで継続した。また、大口開栓班は4月2日に発足したJGA 特約開栓隊と共に開栓作業に取り組んだ。大口需要家は1件当たりの消費機器が多いため、対応物件数こそ約700件だがメーター数にすると約2,500件に上った。当初若干の混乱もあったが、JGA 特約開栓隊の協力により、特約開栓作業は4月16日に終了した。また、内管修繕と並行して実施していた延べ16カ所でのPA13Aによる供給も19日には終了した。

■特約開栓 組織図



■特約開栓作業件数



■PA13A移動式ガス発生設備設置状況

